

『国士館人文科学論集』規程

編集規程

1. 本誌は、国士館大学大学院人文科学研究科の機関誌であり、本研究科教員、在学生、および編集委員会の承認を得た者の研究論文、その他研究に関連する記事を電子データとして大学のウェブサイト上に掲載するものである。
2. 編集委員会は、研究科長および科長の委嘱を受けた委員によって構成する。
3. 原稿の掲載は、査読規程に従い、審議を経て決定する。
4. 掲載予定の原稿について編集委員会は、執筆者との協議を通じ、内容の修正を求めることがある。
5. 編集委員会は、必要により特定の個人または団体に対して原稿の依頼を行うことができる。
6. 執筆による校正は、再校までとする。その際の内容の修正は、原則として認められない。

2019年5月28日編集委員会制定

投稿規程

1. 機関誌への投稿内容は、未発表のもの、刊行予定でないもの、および他学会誌等に掲載予定でないものに限る。ただし、口頭で発表し、これを初めて論文にまとめたものは未公開と見なす。
2. 論文原稿は、原則として横書き、A4版用紙1頁あたり横36字、縦36行、上下余白各30mm、左右余白各30mmとし、本文の他、タイトル、注記、図表、参考文献等を含めて14枚程度とする。10.5ポイント、MS明朝体（英数字はSegoe UI）、「、」「。」で作成する。
3. 論文投稿の締め切りは、原則として10月末日とする。
4. 原稿は電子媒体（Word形式等データ）を編集委員会宛に電子メールにて添付ファイルとして送付する。
5. 原稿の末尾には、原稿の英文タイトル、氏名（ふりがな、欧文表記）、所属・職名を明記すること。
6. 論文原稿の題目の次に、1行おいてから400字程度の要旨と8項目以内のキーワードをつけること。

7. 本誌に掲載の記事の著作権は本研究科に帰属する。ただし著作者自身が自己の著作物を利用する場合には、本研究科の許諾を必要としない。

2019年5月28日編集委員会制定

2019年11月17日改訂

査読規程

ここに国士舘大学大学院人文科学研究科『国士舘人文科学論集』編集規程に基づく原稿の査読について、実施上必要な事項を定める。

1. 査読者の選定

編集委員会が原稿ごとに査読者を決定する。

2. 掲載可否の決定

(1)査読は2名の査読者によって行われる。

(2)査読者は、「掲載可」、「条件付掲載可（修正の上、再査読の結果により改めて可否を決定）」または「掲載不可（大幅な修正を必要とする等のため）」を判断し、報告書を作成して編集委員会に提出する。なお編集委員会は、査読結果に基づき、投稿者の同意を得て他の論文の種類として掲載することができる。

(3)投稿論文原稿についての採否は、編集委員会の総意により決定する。編集委員会の依頼による論文原稿についても投稿論文と同じように扱う場合がある。いずれの場合も、必要に応じて編集委員会から投稿者に原稿の修正を求めることができる。

2019年5月28日編集委員会制定

第7号編集委員

小野瀬倫也（国士舘大学文学部教授・委員長）

久保田裕次（国士舘大学文学部准教授・副委員長）

松野 敏之（国士舘大学文学部教授）

松野 彩（国士舘大学文学部准教授）

桜井 美加（国士舘大学文学部教授）

菱刈 晃夫（国士舘大学文学部教授）

桐越 仁美（国士舘大学文学部准教授）

夏目 琢史（国士舘大学文学部准教授）

執筆者紹介（掲載順）

- 魏 巍（浙江師範大学講師（国士館大学訪問研究員））
石川 正明（横浜市立吉原小学校）
張 潮宇（国士館大学大学院人文科学研究科博士3年）
吉岡 正憲（国士館大学大学院人文科学研究科博士3年）
前田 弥子（国士館大学大学院人文科学研究科修士2年）
江川 陽介（国士館大学文学部教授）
菱刈 晃夫（国士館大学文学部教授）
張 琢月（国士館大学大学院人文科学研究科博士3年）
菱刈 晃夫（国士館大学文学部教授）
小野瀬倫也（国士館大学文学部教授）
助川 晃洋（国士館大学文学部教授）
葉 慧琳（国士館大学大学院人文科学研究科修士2年）
顧 成（国士館大学大学院人文科学研究科修士1年）
小畑 直輝（国士館大学大学院人文科学研究科博士1年）
相磯詩音乃（国士館大学大学院人文科学研究科修士2年）
アディラ・マイマイティ（国士館大学大学院人文科学研究科修士1年）
菊地 正太（国士館大学大学院人文科学研究科修士1年）

編集後記

『国士館人文科学論集』第7号をお届けします。おかけさまで、大学院生の研究紹介をふくめ、豊富なラインアップとなりました。ご味読ください。原稿をお寄せいただいた執筆者の方々に感謝申し上げます。

本誌の電子ジャーナル化と国士館大学リポジトリでの公開も2年目となりました（私の研究科主任歴と同じです）。1年目・2年目と新しい編集作業に慣れるのに必死でしたが（この間、皆さまにはご迷惑をおかけいたしました）、ようやく流れがつかめるようになってきました。個人的には紙媒体での刊行に未練は残りますが、いつでも、どこでも、手軽に閲覧できる電子化のメリットは非常に大きいと考えています。

本誌のコンテンツには、核となる研究論文はもちろん、自著紹介や研究紹介なども設けております。ぜひ皆さまの様々な研究成果をお送りください。心待ちにしております。

最後になりましたが、査読をお引き受けくださった先生方、英文タイトルの校正を行ってくださったベバリ・ヘニング元政経学部教授に感謝申し上げます。

（久保田裕次 記）

国士館人文科学論集 第7号

令和8年2月28日発行

編集・発行

国士館大学大学院人文科学研究科編集委員会

代表者 小野瀬倫也

〒154-8515

東京都世田谷区世田谷 4-28-1